

【3年生】

	児童の現状の分析	授業改善の方針
国 語	○主語、述語を意識して文章の定着について個人差が大きい。 ○思いや考えを自分の言葉で伝えることについて個人差が大きい。 ○読書の定着について課題がある。 ○漢字の定着に個人差がある。	○ポプラタイムを活用して、主語・述語、修飾語、助詞などの言語事項について、繰り返し指導し、係り受けの関係を意識できるようにする。 ○視写をくり返すことにより、文章を読むこと・書くことの力を付けていく。 ○少人数での話し合い活動やタブレットでの交流などを行い、苦手な児童も安心して表現し学び合えるようにする。 ○読書タイムでの読書活動や読み聞かせの機会を充実させることで、読みの力を高めたり読書に興味をもてるようにしたりする。 ○漢字学習を繰り返し実施したり、文の中で使えるように意図的に取りませたりする。
社 会	○地域について調べる学習ではすすんで取り組むことができる。 ○資料から情報を読み取ることについて個人差が大きい。	○調べたことを、地図や年表、新聞等にまとめることで、知識を確かなものとしていく。 ○学習する中で疑問に思ったことを観察、調査したり、基本的な資料を活用したりして調べ、理解を深める。 ○資料を読み取る際の手順をくり返し指導する。また、読み取った内容がどんな事象と関わっているのか、関連付けて理解できるよう丁寧に指導する。 ○用語の意味が正しく理解できるよう、国語辞典で調べたり言葉を言い換えたりさせる。
算 数	○繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算や九九などの基礎的な計算は概ねできるが、個人差が大きい。 ○量の単位、時間の単位に関する理解が十分ではなく、知識が定着していない。 ○問題場面を図に表すなど論理的に考える力に課題が見られる。	○基礎的な計算に繰り返し取り組んだり、ベーシックドリルを活用したりして更なる定着を図る。 ○数学的活動を通して、問題の意味を捉えやすくしたり、量感を養ったりしていく。また、日常的な活動の中で学んだことを活用する場面をつくり、理解を深める。 ○時刻や時間を求める際に、模型時計や数直線、式などを使って時間の動きを感覚的に捉えるだけでなく根本的な仕組みを考え、求め方を考える力を育てる。 ○文脈どおりに数量の関係を図（線分図・数直線など）に表したり、立式したり、未知数の求め方を説明したりする数学的活動を通して、数量の関係を明確に捉えられるようにしていく。

理 科	○生き物に関心をもっている。 ○観察・実験の結果から、考察や結果のまとめを自分の言葉で表現することが難しい。	○自然事象と関わる機会を十分にとり、科学的思考の素地を養う。 ○直接体験することが難しいものに関しては、ICT を活用し擬似的に体験できるようにする。 ○観察・実験のねらいや視点を明確に示したりキーワードをおさえたりして、結果から考えられることを自分の言葉で表現することができるようにしていく。 ○「問題→予想→観察・実験→結果→まとめ→ふり返し」の学習の流れを繰り返すことで、問題解決の学び方の定着を図る。
音 楽	○音楽的活動が好きで、すすんで学習に取り組もうとしている。リズムの身体表現への関心が高まっている。 ○課題について諦めずに取り組める態度が養われている。	○児童にとって、より意欲的に取り組めるように教材を工夫する。 ○頑張っている部分をその都度褒め、更に高い目標がもてるように指導する。
図 工	○主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組んでいる。しかし、自分の活動が優先で共感的関心が十分に身につけていない。 ○造形遊びをする活動の経験が少ない。 ○形や色などを基に、自分のイメージをもち豊かに表現できている。自然が多い環境で育まれているので実体験の中からテーマを生み出せている。 ○表したいことに合わせて表現を工夫できる材料や用具の経験が少なく、表したいことに合わせて知識技能を生かすことに課題がある。 ○体全体で表現することを楽しめている。しかし、指先を使う細かい表現の経験が少ない。	○鑑賞を取り入れ、自分の活動を振り返ったり自他の表現の違いに気付いたりする経験を増やしていく。 ○造形遊びなどの自分たちで活動をつくる経験を通して、材料や環境、友達同士の関わり合いを増やしていく。 ○自分の感覚や行為から自分なりのイメージを生み出すため、じっくり見る、触る、などの感覚的行為の充実を図る。 ○手や体全体の感覚を働かせ、表現活動に取り組む児童を増やすため指導の充実を図る。 ○系統的に材料用具を活用できるよう、またテーマを自身で考え表現できるよう、計画的な年間計画を設定する。
体 育	○すすんで運動しようとする。 ○生活や遊びの中で、ボールを用いた運動経験に差があり、技能差がある。 ○自己の運動の課題を意識したり、考えたことを他者に伝えようとしたりする姿ことに課題が見られる。	○児童の実態や運動の技能を十分に理解し、場の設定やルールを工夫することで運動の特性に応じた楽しさや喜びに触れることができるようにする。 ○ボールを用いた運動を行う機会を計画的に設定し、スモールステップでの課題を設定し、楽しみながら運動を行い、自信や技能を高めていく。 ○児童同士の対話を促すための発問や言葉かけを増やしていく。課題を明確に示すことで、できるようになるために視点を提示し、何を考えて実践すればよいか分かるようにする。
道 徳	○自分の行動をふり返って考えたり、相手の立場に立って考えたりできる。	○意見交流や対話の時間を十分に確保し、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ○タブレットを活用し全体で意見交流できる

		ようにする。 ○資料から学んだことを基に、自らの経験と振り返る活動を意図的に設定する。
総合的な学習の時間	○体験的な活動に興味・関心をもって参加したり、調べたりしようとしている。 ○何をどのように調べたら良いか、調べ方に課題がある。	○調査や見学、体験的な活動等を通して個々の課題を見つけ、探究的に学習を進めていけるよう、教材や活動、指導計画を工夫する。 ○課題において予想を立て、それを基に調べる計画を立てる活動を丁寧に行う。 ○学習のまとめとして発表会を設けるなど、表現活動を大切にしながら取り組む。 ○ポスターやスライドなど様々な発表形態を体験させる。
外国語活動	○すすんで活動に取り組もうとしている。外国語への関心も高い。	○児童に身近で分かりやすい教材を扱うようにし関心意欲を高めていく。 ○ゲームなどを通して、表現に親しませていく。日頃から学習した表現を意図的に活用し、なじませていく。 ○外国語での交流に抵抗のある児童も安心して取り組めるようモデルを提示したりイラストを提示したりするなどの視覚的な支援を行う。